

京都教区時報

第111号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

特集 教区全修道院アンケート

信者一人ひとりに信仰の喜びを

日本司教団がこの発表をしたのは当然のことであり、むしろ遅すぎるときえ思われる。昭和二十年の終戦時には日本も韓国も信者数はそれぞれ約三百万であった。その後四十年を経過した現状には大きなひらきがある。日本はせいぜい四十万の信者数であるのに韓国は百六十五万を超えていた。では日本の教会は過去四十年のあいだ何も宣教努力をしなかったのだろうか。決してそうではない。かなり努力した筈である。にもかかわらずこのようないい信者数のひらきが生じた。或る識者は「それは韓国にはながい歴史をもつ伝統的な宗教がなく、又絶えず共産主義の脅威にさらされていていたので精神的なものを求めざるを得なかつたのだ」という。なるほどこういう説明も一理がある。しかしそれなら日本では創価学会やメシヤ教や阿含教が目を見張るほどに教勢をのばしたのは何故だろうか。これらの發展を遂げた新興宗教に共通して見られることは教職者の努力もさることながらその信徒達のなりふりかまわぬ熱狂的とさえ思われるような宣教活動である。カトリック教会にはどうもこれが見られない。初代のローマ教会の発展はペトロやパウロの活躍だけでは説明できないであろう。むしろ当時のローマの新

日本の教会の
基本方針と優先課題に

思つこと

丸山吉高
(主任司祭)

日本の教会の
基本方針と優先課題

信仰の喜びを他人に分け与えよう!

しい信者達の結束と宣教熱に由来するのではあるまい。又韓国のカトリックの教勢の伸長は司教団や司祭團の努力よりも、むしろ信者達の宣教心の旺盛さの賜物であろう。一例を挙げれば韓国の京城教区の一つの教会には宣教のための信徒使徒職団体であるレジオ・マリエのグループ(プレシディウム)が十五組もあり、司祭はこれらを指導するのに日夜奮闘しているという。京都大学で法学博士号を取得するために来日して、しばらく私の高野教会に在籍していた韓国人助教授から昨年末届いたクリスマスカードによれば、彼は帰国後レジオ・マリエの会員として活動し昨年のクリスマスには十五名の求道者を洗礼にまで導いたとあつた。いくら宣教熱心で有能な司祭であつても信者の助けなしに独りで努力したのでは余り成績は挙らないであろう。それよりも信者一人ひとりに信仰の喜びを味わわせ、その信仰の喜びを他人に分け与えずにはおれないように育てることが大切なではないか。又宣教活動を実行させることによって、自分の教理の不足を痛感させ、自らすすんで教理の勉強を深めるように工夫することが必要ではなかろうか。キリストの福音を信ずる信者数が多くならない限り「日本の社会の福音化」という理想も單なるかけごえだけに終つてしまふのではあるまい。日本の教会としては余り欲を出して沢山の目標をかかげてエネルギーを総花式に分散させないで目標を宣教一本にしぼって、日本の教会の発展のために信者一人ひとりのエネルギーをまとめそちらへ向けた方がよいのではないだろうか。

'86 5月4日

第20回 広報の日

世論づくりーあなたもその扱い手

キリスト教的な 世論づくりと

マス・メディアの役割

毎年広報の日に出される教皇メッセージの中、教皇は世論の重さと、世論づくりに果たすマスメディアの重大性を訴えておられる。教皇はパウロ六世の福音宣教の中で、「マス・メディアは福音宣教の最も現代的な説教壇であり、これを使わない事は神に対して申し開きの出来ない怠慢である」(n45)を引用し、又現代世界憲章(n82)を引用し世論のもつ重大性を強調しておられる。

「マス・メディアの時代」と言われる現代において、われわれはカトリックの教えを伝え、信仰を深めるために、進んでマス・メディアを利用しなければならない。福音宣教にマス・メディアを使うこと

ができれば、神の言葉は地球上に広まり、何百万という人々に救いのメッセージが届く。多くの人が知恵を集めて磨き、完成しつつあるマス・メディアという強力な武器を無視するのは、神に対して申し開きのできない怠慢である。(パウロ六世「福音宣教」)——中略——

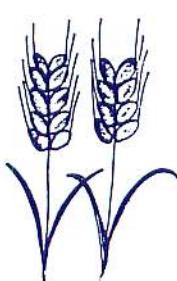
現代社会において、新聞、映画、ラジオ、テレビなどのマス・メディアは、世論をつくるための最も有力な道具です。ですからそういう世界に働く人々、マス・メディアを動かすことのできる人々の倫理的責任は、重大であると言わなければなりません。マス・メディアは人類に奉仕し、人類社会の最も重要で欠くべからざる真理と善に仕えることが望れます。マス・メディアの中で働く人々は、そうした真理と善に添う世論づくりに努める義務があるのです。——後略——

(広報の日にあたっての教皇メッセージより抜粋)



3月		司教の足どり													
1日		女子メリノール高校卒業式、聖母の家学園評議員会・理事	2日(日)	河原町教会ミサ。来訪者多数	3日(日)	ACO・JOC代表と懇談	4日(日)	聖マルチン病院に母を見舞う右病室にて病友とミサ。O師と面談	5日(日)	司牧評事務局会議	6日(日)	石清水八幡宮慶事に出席	7日(日)	司牧評事務局長と面談	
8日(日)	司牧評臨時當任委員会	9日(日)	諸宗教委員会(ス講師)	10日(日)	国際宗教同志会(ス講師)	11日(日)	長岡カトリック司教座巡礼	12日(日)	ND大卒業式	13日(日)	ND小卒業式	14日(日)	助祭叙階式、柳本師・於西陣研究会(伏見稻荷)、WCRP研究会(伏見稻荷)、Bp相馬泊右研究会。平和の歩み実行委員長岡カトリック幼稚園式。ひつじの苑設立委への報告懇談会	15日(日)	司教座巡礼
16日(日)	聖母の家学園理事会・卒業式	17日(日)	聖母の家学園理事会・卒業式	18日(日)	聖母の家学園理事会・卒業式	19日(日)	聖母の家学園理事会・卒業式	20日(日)	三雲カトリック障害者グループ	21日(日)	セントヨゼフ管区長。法人事務多務	22日(日)	司祭の集り(講話・会食・聖香油祝別)、幼稚園理事会(こひつじの苑訪問)、聖木・主の晩餐(聖金・主の受難の式)、司祭の集り(講話・会食・聖ベール会永久誓願(伏見)、司祭の集り(講話・会食・聖ベール会永久誓願(伏見))	23日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)
24日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	25日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	26日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	27日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	28日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	29日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)	30日(日)	幼稚園理事会(葉上筒井)		

訪問客多數
(中略)
訪問客多數



今日は趣向を変えて、笑顔よこがお載せてみたいと思います。
司教さん、聖週間の忙しいころにおひざ元の某神父さん達3人がダイに行くと聞いて、めずらしく週間が終つてから行きますよ」の一言で機げんをなされたのだそ反対されたとか(心細いのかな)。ただ、M神父さんが「ぼくは聖週間が終つてから行きますよ」のさてさて、なんとか承諾をいただいてタイに行かれた神父さん方、当の旅行地では司教さんのうわさ話(?)に花を咲かせて来た(なんとまあ)。ところが、うわさが広まるのは早い。帰国前にもう司教さんは耳に届いたとか……。うわさ話にはくれぐれもご用心。

笑顔
よこ

'86京都・奈良ウオーカソン募金

子供の給食費と 共助組合のために

タイ王国ウボン地区へ届けました

村上透磨



タイの地図を眺めてみれば、

それは何の顔? 象の顔。

その口もとを眺めてみれば、

それは貧食パンコック。
それは貧しき東北タイ。

その耳あたりなぞつてみれば、
それは貧食パンコック。
それは貧しき東北タイ。

その耳あたりなぞつてみれば、
それは貧食パンコック。
それは貧しき東北タイ。

前のこと思っています。だけど違
うんですよ、ないのが当たり前。
とにかく暑さのために思考が止
まつてしまつた様な状態の中で考
える事も書ける事も稚拙でしよう。
だけど又こんな事を書き記してい
ました。

3月19日～4月8日にかけて、
昨年のウォーカソンで集められた
募金をとどける事とその地方をこ
の目で確かめたいと言う願いがあ
つて斎木師と共にタイを訪問して
きました。後で村上(眞)師も加わ
りましたが、三人三様夫々の目的
があつたのです。

さてここでは旅行記を書くつも
りもありませんし、タイという国
を紹介する事等出来っこありません
ただ私が感じました事の中か
ら、二三紹介したいと思います。

水なければ土地生きられず
水も土地もなければ植物はなし
この三つなければ動物、動かず
ところが人間、人間様は、
これらがあつても生きられぬ
もし火がなければ食べられぬ
だから人は被造物中最も弱く、
だから人は被造物なしで生きら
れない。



生活に必要な水ガメ

キリストはやつと(リ)井戸にた
どりつかれた。だけど井戸は深い
のです(!!)。然し井戸の底に十分
な水があるわけではありません。
さて汲み上げた水はすぐに飲め
たのでしょうか。たぶんその水に
慣れない日本人は飲めないでしょ
う。でもイエズスが飲まれたとす
れば……とするとそれ程、キリスト
はその生活に溶け込んでいた

水についてはこの辺でやめる事
にして、復活祭について少々。
はじめウボンの司教座での聖週
間と復活祭と思つておりましたが、
三人は、夫々別れて田舎の教会の
聖週間にあづかりました。その模
様と言うより、復活そのものにつ
いて考え直した事を書いておきた
いと思います。

日本の復活祭は春です。ですか
ら春の朝の新生の喜びを語るので
す。しかし東北タイでは違います。
真夏の40度を超す炎天下に祝われ
るのです。それはものみな枯れ、
水もない、むしろ死をおもう時で
す。

そこで人々は何を悟るのでしょ
う。新生の喜びなのか死への思い
なのか、死を通して味わう生への
希望なのか、そのあたりを考え直
してみたいと思うのです。聖書は
異つた環境で読む時、また違つた
すごい光を放つものなんですね。

火は水を清めます。人は泥水を
飲む事は出来ません。火で清める
のです。私に飲ませて下さった水
は二度も煮沸したものでした。さ
もなければ私は下痢をするでしょ
う。そこでサマリアの女の話が浮
かんできました。

とにかく、私は生命的水だと言
うキリストの言葉はここでは実感
としてわいてくるのです。

水についてはこの辺でやめる事
にして、復活祭について少々。
はじめウボンの司教座での聖週
間と復活祭と思つておりましたが、
三人は、夫々別れて田舎の教会の
聖週間にあづかりました。その模
様と言うより、復活そのものにつ
いて考え直した事を書いておきた
いと思います。

日本の復活祭は春です。ですか
ら春の朝の新生の喜びを語るので
す。しかし東北タイでは違います。
真夏の40度を超す炎天下に祝われ
るのです。それはものみな枯れ、
水もない、むしろ死をおもう時で
す。

そこで人々は何を悟るのでしょ
う。新生の喜びなのか死への思い
なのか、死を通して味わう生への
希望なのか、そのあたりを考え直
してみたいと思うのです。聖書は
異つた環境で読む時、また違つた
すごい光を放つものなんですね。

アンケート内容

- I. 1) あなたの主な仕事は何ですか。
 2) あなたの仕事は、福音宣教の上でどんな意味を持っていると思いますか。
 3) どんな希望や悩みがありますか。
 II. 1) 前記(I)以外に何か福音宣教にかかわる仕事をされていますか。
 (どちらかに○をつけて下さい)
 (イ)している
 (ロ)していない
 (イ)と答えた方は次の質問に答えて下さい。
 a. どんなことをされていますか。
 b. だれとされていますか。
 c. そのことに、どんな希望や悩みがありますか。
 III. 1) あなたの修道院では、小教区の信徒と話したり交わる機会がありますか。
 (イ)よくある (ハ)あまりない
 (ロ)少しある (ニ)全くない
 2) 小教区の信徒と交わる機会についてどう思いますか。
 3) 今後、教区・小教区とのつながりをどのようにして行きたいとお考えですか。
 IV. 修道生活の中で、どんな時に一番喜びを感じられますか。(なるべく具体的に)

修道会とつながった
宣教共同体づくりをめざして(上)

「信徒の皆さんとの交わりをもっと大切にしたい!」シスターより



女子修道院にアンケート



ご存知ですか? 日本司教団から出された「日本の教会の基本方針と優先課題」を。その中に、「司教を中心とする宣教共同体づくり、教育、福祉などの諸事業体パイプで日本の社会につながっている修道会、宣教会はそれぞれの道を模索中協力態勢を敷く」という課題があります。この目標に向って、今各修道会、宣教会はそれぞれの道を模索中だと思います。

時報編集部では教区内全修道院に左記の様なアンケートを実施し、福音宣教の現状を見る試みました。まず全修道院にアンケート用紙3枚を配布、共同体メンバーを3つの年令グループ(20~39歳、40~55歳、56歳以上)に分け、各グループの一

- 教育、福祉関係がほぼ半数
- 指示する役目になりたい
- 共同体・個人としての福音化
- 事務の仕事を通じて出会う人々に福音宣教を
- キリストの愛や喜びをつたえる
- 事務職の場では
- 福音宣教の上でどんな意味を持つていますかという問い合わせにそれぞれ答えて下さいました。
- 共通してるのは、自分が持つていて宣教する事
- 同体内外の別を超えて、福音宣教に徹しようとする姿勢が見えます。管理職、その他の中修道会員も、「姉妹がそれぞれの場で福音宣教ができるよう、またキリスト者として喜びに満ちた生活ができるような環境づくり」に励み、またそのような姉妹の後だけであることを自覚しています。
- 教育を通して宣教すること
- 子供を通して父兄に神を知らせる
- 福祉施設の場では
- 看護を通してキリストの福音を証しする
- 神の存在を感じさせ、キリストを生きた証しの場
- 学校や幼稚園の場では
- 教育を通して宣教すること
- 子供を通して父兄に神を知らせる
- 福祉施設の場では
- 看護を通してキリストの福音を証しする
- 神の存在を感じさせ、キリストを生きた証しの場



修道会の事業に奮闘中です



■シスターの主な仕事と人数
福祉施設(養護施設・病院)…11人
福音宣教…11人
幼稚園教諭…10人
学校教諭(小・中・高)…8人
管理職…5人
事務職…4人
その他(監督、英語教室の教師等)…13人

シスターの主な仕事は何ですか

他に福音宣教にかかる仕事をしていますか

要理教育や日曜学校にやりがいを感じています

- 過半数が何らかの活動に。



■仕事以外に福音宣教に

関わる仕事と人数

各ボランティア活動	13人
要理・聖書研究等の指導	12人
土・日曜学校の指導	8人
病院・家庭等の訪問	3人
少年院のカウンセラー	1人
合計	37人

- 国を証してゆきたい希望を持ちな
- 毎日の生活の中で具体的に神の
- キリストの愛に真実に応えられ
- ない。
- 心に余裕、ゆとりが持てず、そ
- のため人にとの出会い、質問され
- た時など、自分の心の奥底からあ
- ふれる愛の不足で結局キリストの
- 愛の証しにつながらない。
- 毎日の生活の中で具体的に神の

主な仕事、それ以外の福音宣教にかかる仕事の上の悩みのいくつかを拾つてみましょう。

まず時間不足の悩みが14で最多

数でした。

●心に余裕、ゆとりが持てず、そ

のため人にとの出会い、質問され

た時など、自分の心の奥底からあ

ふれる愛の不足で結局キリストの

愛の証しにつながらない。

●キリストの愛に真実に応えられ

ない。

●毎日の生活の中で具体的に神の

国を証してゆきたい希望を持ちな

い。

この使徒職に協力する働き仲間が

- 心に余裕、ゆとりが持てず、そ
- のため人にとの出会い、質問され
- た時など、自分の心の奥底からあ
- ふれる愛の不足で結局キリストの
- 愛の証しにつながらない。
- キリストの愛に真実に応えられ
- ない。
- 毎日の生活の中で具体的に神の

- 国を証してゆきたい希望を持ちな
- い。
- この使徒職に協力する働き仲間が

●修道院と小教区の信徒との交わる機会

よくある	21人
少しある	28人
あまりない	13人
全くない	0人

(上記人数は、回答者の意識によって意見がバラバラであるため修道院全体の回答ではない)

●交わる機会を持つてはいるが…。

福音宣教共同体づくりの足が

りとも言える、「小教区の信徒と交

わる機会についてどう思いますか。

との問い合わせ、全員が「必要」「大切」

「よいこと」と答えています。更に、

各回答者の修道院の信徒との交わ

りの現状が「少しある」「あまりな

い」と答えた人は、異口同音に「よ

くある」にもつてゆきたい強い希

望を持っていました。

信徒の皆さんともっと親しくなりたいです

●小教区の信徒と話したりする機会がありますか



(62人のシスターから回答を
いただきました)

■アンケート回答者年代

別人数

20代	2人
30代	8人
40代	16人
50代	22人
60代以上	14人

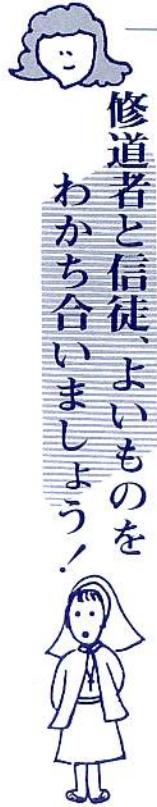
ふえれば時間不足の悩みのいくら
かは解消されるのではないでしょ
うか。

希望として書かれたものの中か
らは、教育施設関係で信者卒業生
のアフターケアを積極的にして
いきたい。家庭または病人訪問を
もつとしてゆきたい。結婚を目前
に控えて、受洗にふみきれない人
達の力になってゆきたい等といつ
たいくつかの回答がありました。

希望として書かれたものの中か
らは、教育施設関係で信者卒業生
のアフターケアを積極的にして
いきたい。家庭または病人訪問を
もつとしてゆきたい。結婚を目前
に控えて、受洗にふみきれない人
達の力になってゆきたい等といつ
たいくつかの回答がありました。

——これからの希望は

修道者と信徒、よいものを わから合いましょう！



の国の建設に向かう神の民全體の
横のつながりが大切であることが
意識されはじめています。

◆次号につづきます。

「修道者、信徒それぞれの生活で
得た恵みの体験を、交わりを通して
分かちあいたい」。また「社会に
開かれる一つの交わりの場として、
キリストの神秘体をより広く理解
する助けとなり、一致するのに役
立つ機会としてとらえたい」とい
う信徒に近づこうとする積極的な
意見・姿勢が全体に見られます。

一方、「修道院共同体の誰かが信
徒と交わっていれば（自分は交わ
る必要がない）」といった回答もあ
り、修道者一人ひとりが修道会の一員
であると同時に小教区の一員である
という自覚に今一つという印象を受けました。

また信徒と広く、深く交わることを望みながら、結局時間不足で極く限られた範囲の信徒に浅くしか交わらず、信仰の分かちあい、信徒の悩み、問題を聞く、関るといった深さまでには至りません。

交わりの場としては、種々の教
会での行事、バザー、運動会、聖
書研究等に修道者が出かけて行く

例がほとんどです。しかし回答の中には「修道者が小教区に出かけ
て交わることも必要だと、信徒の方からも修道院を訪問してほしい」と、交わりの場としての修道院を提案しています。

修道者は信徒にもっと近づきた
いと望むと同じくらい、信徒が修
道者、修道院にもっと気軽に近づ
くよう希望していることをこのアンケートのまとめの集まりに出席された修道者の方からも伺いました。

確かに信徒の方に与える修道院の近づきがたいイメージを改める
問題もあります。いくつかの修道
会では、修道院を信徒に開放する
のにどうしたらよいかと真剣に共
同体で話し合っています。またある修道院では信徒の方たちに多
目的の集会に使つてほしいという
声も出ています。

◆アンケート協力修道院名	
ウイチタ聖ヨゼフ修道会	本部・阿坂
幼きイエズス修道会	河原町・衣笠
カノツサ修道女会	御所
カローネレットの聖ヨゼフ修道会	京都・津
けがれなき聖母の騎士	四日市
聖フランシス修道女会	高田
汚れなきマリア修道会	三雲
聖心のウルスラ修道女会	京都
聖ドミニコ女子修道会	聖母訪問会
カローネレットの聖ヨゼフ修道会	草津・舞鶴・舞鶴第一・京都
ノートルダム教育修道女会	奈良
メリノール女子修道会	松ヶ崎・大津
善きサマリア人修道会	奈良
ヌヴェール修道女会	本部

かつての修道会共同体では縦の
つながりが強調されました。福音
宣教をうたう今日の教会では、神
方、どうもありがとうございました。

永年の信用と実績 真心のこもったご奉仕

(葬祭センター)

株式会社 公益社

本社・烏丸三条下ル (075)221-4116(代)

北支社・京都市北区紫明通堀川東入
南支社・宇治市楳島町・文教短大前

車検 カローラクラス 96,250円(全費用)

50余りのマスクが絶賛!!



新車・中古車も市価より5~15万円は安くなります
Auto Project
車検代行サービス (宇治教会・松浦博司)

京都営業所 (075)-612-3504
京都市伏見区桃山町丹後33-87

きよつと◆しが◆なら◆みえ

山田経三師(イエズス会)を招いて



リック教会における福音宣教」と題して講演して頂いた。同師は京都教区のビジョン策定までの経過を讃えながら次の5つの点について話された。

I 福音宣教とは

①教区ビジョンの中心である「社会と共に歩む共同体作り」即ち社会に開かれた宣教共同体づくり

②司教団が呼びかけた1984年の基本方針と優先課題の内容を考へたい

③現代日本(日本が占めている国際的位置づけ)のなかで私達自身の国、小教区の役割、責任のあり方を考えたい

④福音宣教だ。

北部信徒連では、この分ち合い結果を各教会で、さらに深め宣教へ努力することとしている。(梅原)

※喜びの顔、良い顔、信仰の喜びが福音宣教だ。

れ、福音宣教について分かち合つた。この中で、

※結婚式を通して私の親族に喜びを伝えることができた。キリストの温かさを知つてもらうことが宣教だと思う。

※教会の中での対話が重要。ミサで話し合いをしているが本音で話せない弱さがある。

※子供や若者が自然と近づいてくれるような教会、若者に魅力のある教会にしよう。

※社会に出かけていかなければ、社会の求めるものに気がつかない。

第38回全国ファニチアコンクール
「中小企業庁長官賞」受賞

祈りの場が身近にあるよろこび

カトリック家庭祭壇

現代の生活環境にピッタリ

各タイプ豊富に取揃えております。
ご一報下さい。美しいパンフレットを
至急お送りさせていただきます。

豊かな精神文化を創る。

〒604 京都市中京区西ノ京東中合町78

京都家具調査株式会社

カトリック祭壇事業部 〒(075)801-3330

気軽に
ご相談下さい。

タイプ印刷・オフセット印刷

今道印刷

☎(075)463-6024

京都市上京区御前通一条西入下ル
下堅町152 〒602

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

お知らせ

教区スケジュール

5月

- 2~4日三重地区マリツジ・エ
ンカウンター(津研究館)
5日 奈良右近祭
ノートルダム創立者列福
記念ミサ
11日 京都北丹地区細川がラシヤ祭
12日 三重地区司祭集会(名張)
16日 京都中央理事会
18日 聖靈降臨祭
19日 河原町教会堅信式
京都南部司祭集会
24日 小羊会チャリティーリサイタル
25日 小羊会30周年ミサ(高野)
安土セミナリオ記念ミサ
26日 司祭評議会定例会議

▼行つてみませんか
チャリティコンサート

◎彦根教会

小さな贈りものをさせて
「聖母盲人自治園の方々に」

とき 5月17日(土)PM7時~9時

ところ 彦根教会附属聖ヨセフ幼稚園
ピアノ 林 恵子(桑名教会)

入場無料(金馬力献金箱を回すと御協力をお願いします)

▼お問合せ(電話番号) 0774-82243013985

▼主催 彦根教会信徒会
演奏曲目

第一部 ベートーベン作曲 月光
ショパン作曲 ワルツ「別れ」

第二部 マズルカ変ロ長調 他

○小羊会
聖書朗説とピアノ演奏と默想で構成される「イエズスの生涯」

とき 5月24日(土)PM2時~4時

ところ 京都こども文化会館

(京都市上京区三条通七本松西入
464-1356)

協力券 一、〇〇〇円

▼平和への歩み講演会

とき 5月25日(日)PM2時~3時半

ところ 京都カトリック会館6F

講師 小笠原亨一氏(牧師)

テーマ 「非差別部落に

住んで思うこと」

主催 京都教区平和への歩み実行委員会

望遠鏡の世界と顕微鏡の世界が同じだと信じさせる事が出来ます。聖人を殺人犯に仕たてる事も出来ます。近頃は神様よりテレビの方が信仰されています。これ私の悪口です。でも私の悲しみです。(M.T.)



'86年第6回青年アジア体験学習

参 加 者 募 集

☆開催要項

内容 ワークキャンプと現地青年との交流

目的地・募集人数

フィリピン(インファンタ)……18名

期間 1986年8月16日(土)~30日(土)

費用 15万円(渡航費・滞在費・旅行保険料を含む)
(手続きのための費用・出発空港までの費用は各自負担)

参加資格 18才以上

☆申込方法

申込金 2万円

方 法

①申込用紙に必要事項記入し現金封筒にて送付。

③作文「どうしてフィリピンに行きたいか」を400~600字にまとめて提出。

申込締切 5月15日

申込問い合わせ先

〒636 奈良県北葛城郡河合町中山台1-19-3

西大和カトリックセンター

オハール神父宛 TEL 0745(73)5141

※韓国グループの問い合わせは教理センターまで
(Tel 075-752-0057)